

# 作品集

2024(令和6年度)



令和6年度家族ふれあい大賞第28回「明るい家庭づくり(家庭の日)絵画展」

【家族ふれあい大賞 京都府知事賞】受賞作品

「かぞくで もぐって びっくり」

宇治市立岡屋小学校3年 鷲田 海佳人さん

小学生対象

令和6年度家族ふれあい大賞  
第28回「明るい家庭づくり(家庭の日)絵画展」

主催/京都府 京都府教育委員会 (公社)京都府青少年育成協会

中学生対象

第46回「少年の主張京都府大会」

主催/(公社)京都府青少年育成協会 京都府 PTA 協議会  
京都市 PTA 連絡協議会 (独)国立青少年教育振興機構

公益社団法人 京都府青少年育成協会

《京都府青少年健全育成府民運動スローガン》

気づいてる？ あなたのまわりの あたたかさ

## はじめに

（公社）京都府青少年育成協会では、明るい家庭づくりや青少年の豊かな心を育むため、小学生を対象とした「家族ふれあい大賞」・「明るい家庭づくり（家庭の日）絵画展」・「明るい家庭づくり」運動の普及啓発事業、中学生を対象とした「少年の主張京都府大会」の二つの事業を行っています。

令和六年度家族ふれあい大賞・第二十八回「明るい家庭づくり（家庭の日）絵画展」は、京都府と京都府教育委員会が令和二年度まで実施してこられた家族ふれあい大賞（絵画・写真）事業と当協会が実施してきました「明るい家庭づくり（家庭の日）絵画展」事業を令和三年度から一つの事業に統合し、小学生から見た家族や家庭内での微笑ましいふれあいを絵に表現することを通して、子どもたちの健やかな成長にとって家庭の役割の大切さを再認識することを目的として、京都府、京都府教育委員会と当協会の共催で実施しています。本年度は、一〇五校・七三七作品の心温まる絵画の応募をいただき、審査委員会（第一次・最終）で入選二十三点と佳作五十三点を選出し、京都府知事賞には、鷺田海佳人さん（宇治市立岡屋小学校三年生）の作品が選ばれました。入賞された作品二十三点及び佳作五十三点による入賞等作品展を令和七年三月から府内二十六箇所で開催します。

第四十六回「少年の主張京都府大会」は、人格を形成する上で重要な時期にある中学生が、日常生活の中で感じていることや考えていることなどを自分の言葉でまとめ、それを「少年の主張」として広く訴える機会を設け、社会の一員としての自覚と行動を促していくことを目的として、京都府PTA協議会、京都市PTA連絡協議会、（独）国立青少年教育振興機構の共催で実施しました。本年度は、三十五校・五一五七編の素晴らしい作文の応募をいただき、事前の審査委員会（第一次・第二次）で入選十五編と佳作三十六編を選出しました。入選の十五名が令和六年九月二十二日に京都府立総合社会福祉会館（ハートピア京都）で開催した京都府大会において主張を発表し、各賞を決定しました。

京都府大会で京都府知事賞に輝いた牧野心春さん（亀岡市立南桑中学校三年生）を京都府代表として、全国大会候補者に推薦しましたところ、第四十六回「少年の主張全国大会」もわたしの主張2024（於／東京）で、国立青少年教育振興機構努力賞を受賞されました。

御応募いただいた小学生・中学生の皆さんをはじめ、事業の実施に御支援・御協力をいただきました学校や保護者の皆様並びに関係機関・団体の皆様、さらには熱心に作品の審査をしていただきました審査委員の皆様方に心から感謝とお礼を申し上げます。

この冊子では、それぞれの事業で入賞された作品を紹介しております。御高覧いただき、小学生の抱く家庭の温かさ、中学生が日頃感じていることや考えていることをそれぞれの作品から感じ取っていただければ幸いです。

そして、これらの事業が応募いただいた皆さんの心の成長の一助となりますことを願いたしますとともに、取組の裾野が広がり、青少年の健全育成の輪が一層広がっていくことを期待します。

令和七年二月

公益社団法人京都府青少年育成協会

会長 上田 静 男

令和六年度「家族ふれあい大賞」

第二十八回「明るい家庭づくり（家庭の日）絵画展」

|            |   |    |
|------------|---|----|
| ◇概要        | 要 | 2  |
| ◇入賞者、佳作者一覧 |   | 3  |
| ◇入賞作品      |   | 4  |
| ◇講評        |   | 10 |

第四十六回「少年の主張京都府大会」

|                   |              |    |
|-------------------|--------------|----|
| ◇概要               | 要            | 11 |
| ◇入賞者、佳作者一覧        |              | 12 |
| ◇入賞作文             |              | 13 |
| ◇講評               |              | 28 |
| ◇第四十六回「少年の主張全国大会」 | 内閣総理大臣賞 受賞作文 |    |



# 令和6年度「家族ふれあい大賞」 第28回「明るい家庭づくり(家庭の日)絵画展」 ～「明るい家庭づくり」運動の普及啓発事業～概要

## 1 趣旨

「子育て環境日本一」の実現に向け、「明るい家庭づくり」運動の普及啓発など、京都全体の気運を醸成するため、家庭内での微笑ましいふれあいを絵画や写真に表現することを通して、子どもたちの健やかな成長にとって家庭の役割の大切さを再認識するとともに、子育て応援のメッセージを伝える取組として、作品の募集・発信を行います。

## 2 主催 京都府、京都府教育委員会、公益社団法人京都府青少年育成協会

## 3 後援 ことば家庭庁・京都市・京都市教育委員会・京都市市町村教育委員会連合会・京都府小学校校長会・京都市小学校校長会・京都府私立小学校連合会・京都新聞・朝日新聞京都総局・毎日新聞京都支局・読売新聞京都総局・産経新聞京都総局・日本経済新聞社京都支社・NHK京都放送局・KBS京都・エフエム京都(順不同)

## 4 作品募集(絵画のみ掲載)

- (1)題材 親子や家庭におけるほほえましい雰囲気等を表現したもの。「画題(タイトル)」必要。
- (2)対象 京都府内の小学校及び特別支援学校小学部に在籍している児童。
- (3)大きさ 四つ切(38cm×54cm)、横書き
- (4)画材等 自由
- (5)厚さ 作品は画面から3mm以内であれば盛り上げ、貼り付け可。
- (6)募集締切 令和6年9月17日(月)(当日消印有効)
- (7)応募方法 ①必要事項を記入した所定の「応募票」(\*1)を作品裏面にのりづけして、各学校で取りまとめて、所定の「応募者名簿」(\*2)を添付の上、京都府青少年育成協会事務局へ送付。  
②個人の方は、直接京都府青少年育成協会事務局へ送付。  
\*1「応募票」及び\*2「応募者名簿」は協会ホームページからダウンロードすること。また、絵画の応募は一人1作品で未発表、自作のものに限る。【HP <http://www.kyoto-seishonen.or.jp/>】

## 5 審査及び入賞作品等

### (1)入賞作品等

#### 【家族ふれあい大賞/3点】

京都府知事賞 京都府教育委員会教育長賞 京都府青少年育成協会会長賞 /各1点

#### 【家庭の日賞/6点】

京都市長賞 京都市教育長賞 京都市市町村教育委員会連合会会長賞 京都府小学校校長会会長賞  
京都市小学校長会会長賞 京都府私立小学校連合会会長賞 /各1点

#### 【まいにちがたからもの賞/6点】

京都新聞賞 朝日新聞社賞 読売新聞社賞 日本経済新聞社京都支社賞 KBS 京都賞 エフエム京都賞 /各1点

#### 【優秀賞/8点】

#### 【佳作/53点】

### (2)審査 審査委員会で入賞作品及び佳作を決定した。

### (3)①審査委員会審査委員 (50音順敬称略)

上田 静男(委員長)

井黒 雄太 寺町 麗子 中下 美華 野田 千幸 藤田 健一 山下 英孝

### ②最終審査委員会審査委員(50音順敬称略)

赤松 玉女(委員長)

作道 雄 永田 紅 水野 哲雄

## 6 表彰

令和7年3月2日(日)、京都ガーデンパレス「葵」において、入賞者(個別賞)の表彰を行い、会場内において入賞作品の展示を行います。

## 7 入賞作品展の開催

京都府内26か所(予定)で絵画入賞作品展を開催します。

## 8 その他

(1)入賞作品は、入賞作品等の巡回展示で掲示するほか作品集、明るい家庭づくり運動啓発カレンダー、啓発資料等に活用するとともに、協会HPに掲載します。(作品の活用時に、作品の画題(タイトル)及び学校名・学年・氏名を記載します。)

(2)入賞作品の著作権は、(公社)京都府青少年育成協会に帰属します。



# 令和6年度「家族ふれあい大賞」 第28回「明るい家庭づくり(家庭の日)絵画展」

## 入賞者・佳作者一覧

入賞作品は、(公社)京都府青少年育成協会のHPからご覧いただけます。  
URL <http://www.kyoto-seishonen.or.jp/>



### 入賞者

| 賞                     | 画題(タイトル)          | 氏名    | 学校・学年            |
|-----------------------|-------------------|-------|------------------|
| <家族ふれあい大賞>            |                   |       |                  |
| 京都府知事賞                | かぞくでもぐってびっくり      | 鷲田海佳人 | 宇治市立岡屋小学校 3年     |
| 京都府教育委員会教育長賞          | 跳びはねろ 立ち上がって 歌おう! | 植松晃   | 亀岡市立城西小学校 6年     |
| 京都府青少年育成協会会長賞         | 鯛、獲る!!            | 高橋篤人  | 精華町立東光小学校 4年     |
| <「家庭の日」賞>             |                   |       |                  |
| 京都市長賞                 | 家族でクワガタ 大そうさく!    | 河邊純羽  | 京都市立花園小学校 4年     |
| 京都市教育長賞               | 家族4人で行った 楽しい海     | 錦織千琴  | 京都市立梅小路小学校 1年    |
| 京都市府町村教育委員会<br>連合会会長賞 | みんなで楽しい まどふき      | 畑本乃々葉 | 舞鶴市立余内小学校 1年     |
| 京都府小学校校長会会長賞          | 楽しかった 乳搾り体験       | 山口蒼衣  | 舞鶴市立新舞鶴小学校 4年    |
| 京都市小学校長会会長賞           | 花火大会の帰り道          | 谷口晴章  | 京田辺市立薪小学校 1年     |
| 京都府私立小学校連合会会長賞        | いとこと一緒に じゃがいもほり   | 和田梨月  | 亀岡市立藤田野小学校 2年    |
| <まいにちがたからもの賞>         |                   |       |                  |
| 京都新聞賞                 | 家族の顔より 大きなきゅうり    | 矢倉史章  | 木津川市立高の原小学校 2年   |
| 朝日新聞社賞                | かぞくで花火 たのしいな      | 瀬戸川英杜 | 木津川市立城山台小学校 2年   |
| 読売新聞社賞                | 家ぞくで見た 夏の星空       | 森下大地  | 長岡京市立長岡第七小学校 2年  |
| 日本経済新聞社京都支社賞          | みんなで流しそうめん        | 湯浅美織  | 亀岡市立南つつじヶ丘小学校 5年 |
| KBS 京都賞               | みんなでラーメン屋さん       | 辻愛梨   | 綾部市立綾部小学校 1年     |
| エフエム京都賞               | 家族みんなで田んぼのお世話     | 阪部璃桜  | 城陽市立寺田西小学校 3年    |
| <優秀賞> (順不同)           |                   |       |                  |
| 優秀賞                   | あついひには かきごおり さいこう | 岡田琉生  | 舞鶴市立中筋小学校 1年     |
| 優秀賞                   | アジサイ公園で家族でピクニック   | 佐藤彩光  | 舞鶴市立朝来小学校 4年     |
| 優秀賞                   | 家族でお花見            | 奥田佳乃  | 亀岡市立安詳小学校 2年     |
| 優秀賞                   | お父さんと草ぬき          | 清水操希  | 綾部市立西八田小学校 4年    |
| 優秀賞                   | かぞくでたのしいみずあそび     | 吉村陽翔  | 木津川市立梅美台小学校 1年   |
| 優秀賞                   | うわーっ とびっくり バブルショー | 大西紘生  | 木津川市立州見台小学校 1年   |
| 優秀賞                   | 暑い日に家族でせんたく物ほし    | 飯田花帆  | 京都市立正親小学校 3年     |
| 優秀賞                   | 貴船で流しそうめん         | 草場咲菜  | 長岡京市立長岡第五小学校 4年  |

### 佳作者 (順不同)

| 氏名           | 学校・学年           | 氏名    | 学校・学年              |
|--------------|-----------------|-------|--------------------|
| 岩崎凛          | 京都市立二条城北小学校 3年  | 谷口禾怜  | 井手町立井手小学校 2年       |
| 橋口絢乃         | 京都市立錦林小学校 2年    | 本凛桜   | 宇治市立田原小学校 2年       |
| 石神奈奈         | 京都市立北白川小学校 5年   | 松宮律槻  | 宇治市立宇治田原小学校 1年     |
| 坂上慧          | 京都市立朱雀第一小学校 4年  | 山崎心結  | 精華町立精北小学校 1年       |
| 辻邨菜          | 京都市立朱雀第七小学校 3年  | 森田香   | 精華町立山田荘小学校 2年      |
| 盛下愛莉         | 京都市立山階小学校 3年    | 西村柚紀  | 精華町立東光小学校 1年       |
| 大野旺太郎        | 京都市立鏡山小学校 6年    | 山本花奈  | 相楽東部広域連合立和東小学校 1年  |
| 川瀬花          | 京都市立広沢小学校 2年    | 南川緑人  | 相楽東部広域連合立南山城小学校 2年 |
| 竹花希          | 京都市立西院小学校 1年    | 福川心愛奈 | 亀岡市立安詳小学校 1年       |
| 松木実和子        | 京都市立西京極西小学校 4年  | 高木娃奈  | 南丹市立園部小学校 3年       |
| 李祐佳          | 向日市立第4向陽小学校 2年  | 平野星空  | 京丹波町立竹野小学校 4年      |
| 島津栞音         | 宇治市立三室戸小学校 3年   | 松本いろは | 綾部市立物部小学校 3年       |
| 岩本桃佳         | 宇治市立北小倉小学校 3年   | 梅原凛   | 綾部市立西八田小学校 4年      |
| 成清美瑚         | 宇治市立大久保小学校 2年   | 久下愛叶  | 福知山市立昭和小学 4年       |
| 森梨乃          | 城陽市立寺田小学校 1年    | 中嶋千華  | 福知山市立雀部小学校 4年      |
| 前田紗良         | 城陽市立青谷小学校 5年    | 山口真凛  | 舞鶴市立新舞鶴小学校 2年      |
| 渡邊水翔         | 京田辺市立田辺小学校 5年   | 浦西柚排  | 舞鶴市立大浦小学校 3年       |
| 内藤結葵         | 京田辺市立三山木小学校 3年  | 水野愛梨  | 舞鶴市立高野小学校 1年       |
| 北村柚稀         | 木津川市立木津小学校 1年   | 澤田行   | 宮津市立栗田小学校 1年       |
| 添田千暁         | 木津川市立相楽台小学校 6年  | 松本莉緒  | 与謝野町立石川小学校 1年      |
| 岡田泰成         | 木津川市立梅美台小学校 1年  | 矢野日向  | 京丹後市立いさなご小学校 5年    |
| 飯田菜愛         | 木津川市立梅美台小学校 1年  | 井瑚心菜  | 京都府立向日が丘支援学校小学部 5年 |
| 木寅結月         | 木津川市立州見台小学校 1年  | 中村あい  | 京都教育大学附属京都都小中学校 2年 |
| 松坂実咲         | 木津川市立城山台小学校 2年  | 宮村依菜  | 京都女子大学附属小学校 1年     |
| 田中透羽         | 木津川市立加茂小学校 3年   | 吉岡里穂子 | 光華小学校 1年           |
| 松本伊織         | 木津川市立南加茂台小学校 1年 | 磯俣心春  | 同志社国際学院初等部 4年      |
| ジャンナット ミフタフル | 久御山町立東角小学校 1年   |       |                    |



## —家族ふれあい大賞—

### 👑 京都府知事賞

「かぞくで もぐって びっくり」



宇治市立岡屋小学校 3 年  
鷲 田 海佳人さん

### 👑 京都府青少年育成協会会長賞

「鯛、獲る！！」



精華町立東光小学校 4 年  
高 橋 篤 人さん

### 👑 京都府教育委員会教育長賞

「跳びはねろ 立ち上がって歌おう！」



亀岡市立城西小学校 6 年  
植 松 晃さん



## —「家庭の日」賞—

### 👑 京都市教育長賞

「家族4人で行った 楽しい海」



京都市立梅小路小学校 1 年  
錦 織 千 琴さん

### 👑 京都市長賞

「家族でクワガタ 大そうさく！」



京都市立花園小学校 4 年  
河 邊 純 羽さん

### 👑 京都府小学校校長会会長賞

「楽しかった 乳搾り体験」



舞鶴市立新舞鶴小学校 4 年  
山 口 蒼 衣さん

### 👑 京都府市町村教育委員会 連合会会長賞

「みんなで楽しい まどふき」



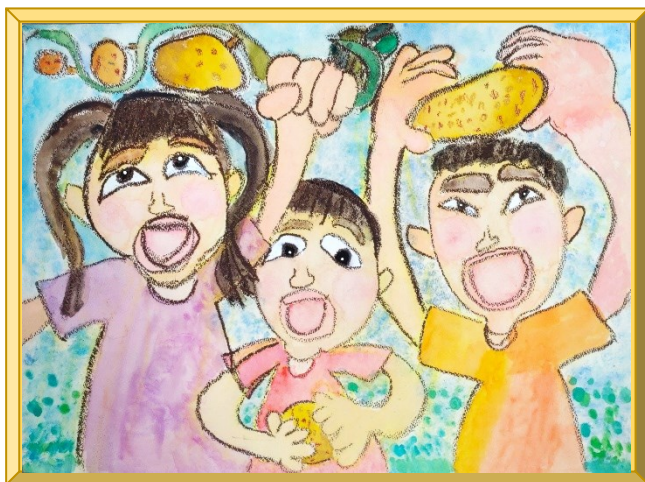
舞鶴市立余内小学校 1 年  
畑 本 乃々葉さん



## —「家庭の日」賞—

👑 京都府私立小学校連合会会長賞

「いとこと一緒にじゃがいもほり」



亀岡市立穂田野小学校 2 年  
和田 梨月さん

👑 京都市小学校長会会長賞

「花火大会の帰り道」



京田辺市立薪小学校 1 年  
谷口 晴章さん

## —まいにちがたからもの賞—

👑 朝日新聞社賞

「かぞくで花火 たのしいな」



木津川市立城山台小学校 2 年  
瀬戸川 英杜さん

👑 京都新聞賞

「家族の顔より大きなきゅうり」



木津川市立高の原小学校 2 年  
矢倉 史章さん



## —まいにちがたからもの賞—

### 👑 日本経済新聞社京都支社賞

「みんなで流しそうめん」



亀岡市立南つつじヶ丘小学校 5 年  
湯 浅 美 織さん

### 👑 読売新聞社賞

「家ぞくで見た夏の星空」



長岡京市立長岡第七小学校 2 年  
森 下 大 地さん

### 👑 エフエム京都賞

「家族みんなで田んぼのお世話」



城陽市立寺田西小学校 3 年  
阪 部 璃 桜さん

### 👑 KBS 京都賞

「みんなでラーメン屋さん」



綾部市立綾部小学校 1 年  
辻 愛 梨さん



## —優秀賞—

### 👑 優秀賞

「家族でお花見」



亀岡市立安詳小学校 2 年  
奥 田 佳 乃さん

### 👑 優秀賞

「あついひには かきごおり さいこう」



舞鶴市立中筋小学校 1 年  
岡 田 琉 生さん

### 👑 優秀賞

「アジサイ公園で家族でピクニック」



舞鶴市立朝来小学校 4 年  
佐 藤 彩 光さん

### 👑 優秀賞

「かぞくでたのしい みずあそび」



木津川市立梅美台小学校 1 年  
吉 村 陽 翔さん



## —優秀賞—

### 👑 優秀賞

「貴船で流しそうめん」



長岡京市立長岡第五小学校 4 年  
草 場 咲 菜さん

### 👑 優秀賞

「お父さんと草ぬき」



綾部市立西八田小学校 4 年  
清 水 操 希さん

### 👑 優秀賞

「暑い日に家族で せんたく物ほし」



京都市立正親小学校 3 年  
飯 田 花 帆さん

### 👑 優秀賞

「うわーつとびっくり バブルショー」



木津川市立州見台小学校 1 年  
大 西 紘 生さん



## 令和6年度「家族ふれあい大賞」 第28回「明るい家庭づくり（家庭の日）絵画展」

### 講 評

「家族ふれあい大賞」の審査を今年もさせていただきました。低学年から高学年まで多学年にわたる子どもたちの作品は、それぞれの年齢で興味関心や表現の変化していくのをつぶさに視る面白さがあります。一人一人の絵に込められた想いを、今年も審査員の先生方と共にたくさん見せていただくことができたことをとても嬉しく思います。

本年度は、家族と過ごすイベントを描いた絵画が737作品、写真が96作品、総数833作品の応募がありました。応募してくださった子どもたち、ご家族をはじめ、このコンクールにご協力いただいた皆様に心から感謝いたします。

審査に当たっては、この企画の趣旨である「明るい家庭づくり」「家族の触れ合い」をより感じさせてくれるものを選考しました。子どもたちは大好きなお絵描きを通して、家族との大切な時間や共有した景色を繰り返し思い出しながら、絵の具で、クレパスで、その喜びを再現しているかのようです。絵を描く心は、その瞬間の発見や驚きを伝えたい気持ちです。そうして心の中で増幅させて、いつでも思い出して温かい気持ちになれる結晶となるのでしょうか。日常の様子、また特別な日のイベントを、子どもの目線で観察し、細かいディテールまで覚えて描いている様子に、家族と過ごす喜びや楽しさが伝わってきます。

近年はさまざまな要因から、家族の構成も、家庭の姿も多様になっています。デジタル化による社会の変化も加速しています。コロナ禍や自然災害などを経て、あらためて家族と過ごせる毎日こそがかけがえのない体験であり、それを描こうとする子どもたちの気持ち、シャッターを切る家族の思いには、ライフスタイルが変わっても、あたたかい心の交差や家庭が果たす役割の大切さがあると気付かされます。

子どもたちや子育て真っ最中のご家族が、絵や写真をきっかけに笑顔になり一緒に選びながら、心の風通しがよくなってくれればと思います。そして作品に表現された喜びが、より多くの皆様に伝わり、子どもたちと子育てする家族の思いに繋がり、今一度家族について考える機会にしていただけたらと願っています。

京都市立芸術大学長 画家  
赤 松 玉 女

## 第四十六回『少年の主張京都府大会』概要

### 1 趣 旨

少子高齢化、国際化、情報化が急速に進み、環境が目まぐるしく変化する現代社会において、次代を担う子どもたちには、心身ともに健康で他者を思いやる心を持ち、社会的に自立していける、健やかな成長が求められている。そのためには、広い視野と柔軟な発想や創造性などと共に、物事を論理的に考える力や、自らの主張を正しく伝え、理解してもらう力などを身に付けることが大切である。

少年の主張京都府大会は、子どもたちにとって、これらの契機となることを願い実施した。

### 2 主 催

(公社) 京都府青少年育成協会・京都府PTA協議会・  
京都市PTA連絡協議会・(独) 国立青少年教育振興機構

### 3 後 援

京都府・京都府教育委員会・京都市・京都市教育委員会・京都府市町村教育委員会連合会・京都府公立中学校長会・京都府私立中学高等学校連合会・京都新聞・朝日新聞京都総局・毎日新聞社京都支局・読売新聞京都総局・産経新聞社京都総局・日本経済新聞社京都支社・NHK京都放送局・KBS京都・エフエム京都(順不同)

### 4 作文の内容

- (1) 社会や世界に向けての意見、未来への希望や提案など。
- (2) 家庭、学校生活、社会(地域活動)及び身の回りや友だちとの関わりなど。
- (3) テレビや新聞などで報道されている少年の問題行動、大人や社会の様々な出来事に対する意見や感想、提言など。

### 5 応募対象

京都府内の中学校及び特別支援学校中等部に在籍している生徒。  
国籍は問わないが、日本語で発表できることが必要。  
なお、作品は一人一作品で未発表、自作のものに限る。

### 6 経 過

#### (1) 作文募集

令和六年四月下旬、募集要項及びポスター等を府内各市町村・市町村教育委員会、各中学校、青少年団体、関係機関等へ配布して募集

#### (2) 募集締切

令和六年八月一日(木) 応募総数 五一五七編(三十五校)

#### (3) 応募作文の審査

第一次審査委員会を令和六年八月二十一日(水)、第二次審査委員会を九月四日(水)開催、入選十五編及び佳作三十六編を選定

#### (4) 「少年の主張京都府大会」

令和六年九月二十二日(日)、京都府立総合社会福祉会館 ハートピア京都において、本大会を開催 十四名の入選者が主張を発表。審査の結果、京都府知事賞・京都府教育委員会教育長賞・京都府青少年育成協会会長賞・京都市教育長賞・京都府市町村教育委員会連合会会長賞・京都府公立中学校長会会長賞・京都新聞賞・KBS京都賞の各賞を決定

#### 【第一次審査委員】(五十音順・敬称略)

勝間喜一郎 杉本 勝

#### 【第二次審査委員】(五十音順・敬称略)

野村 大輔(委員長)  
上田 静男 菊井雅志 能勢 文音  
細井 悠一 吉川 康浩

#### 【大会審査委員】(五十音順・敬称略)

野村 大輔(委員長)  
戌亥 慎吾 上田 静男 菊井 雅志  
丹羽 寛美 能勢 文音 細井 悠一 吉川 康浩

#### (5) 「少年の主張」全国大会への推薦

京都府知事賞を受賞された亀岡市立南桑中学校三年牧野心春さんを全国大会候補者として推薦したところ、国立青少年教育振興機構努力賞を受賞された。

#### (6) その他

① 「少年の主張京都府大会」の模様をネット配信しています。

\*当協会ホームページからアクセスできます。



② 「少年の主張京都府大会」DVDを作成し、府内の中学校等に配布しました。

# 第 46 回「少年の主張京都府大会」

## ■入賞者・佳作者一覧■



### 入賞者

| 賞                  | テーマ                          | 氏 名     | 学校・学年                      |
|--------------------|------------------------------|---------|----------------------------|
| 京都府知事賞             | 私が決める                        | 牧 野 心 春 | 亀岡市立南桑中学校 3 年              |
| 京都府青少年育成協会会長賞      | 私が思う「障害」                     | 富 永 和 奏 | 舞鶴市立青葉中学校 3 年              |
| 京都府教育委員会教育長賞       | だれもが生きやすい社会に<br>～無意識の差別を超えて～ | 前 田 花 音 | 亀岡市立亀岡中学校 3 年              |
| 京都市教育長賞            | そんなところも大好き                   | 井 上 ゆりあ | 京都光華中学校 3 年                |
| 京都府市町村教育委員会連合会長賞   | 多様性社会                        | 永 澤 琴 羽 | 亀岡市立東輝中学校 3 年              |
| 京都府公立中学校長会会長賞      | 一人の時間があるから団らんが好き             | 下 川 桜   | 向日市立西ノ岡中学校 3 年             |
| 京都府 P T A 協議会会長賞   | 自分の中の自分                      | 入 江 千咲葵 | 亀岡市立南桑中学校 3 年              |
| 京都市 P T A 連絡協議会会長賞 | 「比較癖」                        | 杉 本 咲 愛 | 京都府立福知山高等学校附属中学校 3 年       |
| 京都新聞賞              | 知れば変わる私たちの未来                 | 小 山 にじ香 | 福知山市立日新中学校 3 年             |
| K B S 京都賞          | 「普通」という言葉                    | 今 西 優芽愛 | 亀岡市立南桑中学校 3 年              |
| 京都府青少年育成協会会長奨励賞    | 中学生の交通費                      | 谷 口 愛 佳 | 京都府立洛北高等学校附属中学校 2 年        |
| 京都府青少年育成協会会長奨励賞    | 喜怒哀楽の「怒」                     | 上 山 陽 花 | 与謝野町宮津市中学校組合立<br>橋立中学校 3 年 |
| 京都府青少年育成協会会長奨励賞    | あきらめないで                      | 田 村 終 十 | 舞鶴市立和田中学校 3 年              |
| 京都府青少年育成協会会長奨励賞    | 「量」と「質」のバランス論                | 谷 村 知 洋 | 京都府立福知山高等学校附属中学校 3 年       |
| 京都府青少年育成協会会長奨励賞    | 最初の「日本人」に立ち返る                | 廣 澤 奈々美 | 向日市立勝山中学校 3 年              |

### 佳作者（順不同）

| 氏 名     | 学校・学年            | 氏 名     | 学校・学年                  |
|---------|------------------|---------|------------------------|
| 宮 部 拓 大 | 長岡京市立長岡第四中学校 2 年 | 衣 川 韓 寧 | 福知山市立夜久野中学校 3 年        |
| 前 野 琴 羽 | 長岡京市立長岡第四中学校 3 年 | 土 居 きずな | 舞鶴市立白糸中学校 3 年          |
| 中 島 友 利 | 京田辺市立田辺中学校 2 年   | 舩 原 美 月 | 舞鶴市立城南中学校 3 年          |
| 河 野 音   | 京田辺市立大住中学校 3 年   | 市 瀬 阿 子 | 舞鶴市立城北中学校 3 年          |
| 上 坂 心 美 | 井手町立泉ヶ丘中学校 3 年   | 齋 藤 悠 陽 | 舞鶴市立若浦中学校 3 年          |
| 齋 藤 梨 瑛 | 宇治田原町立維孝館中学校 3 年 | 奥 野 玲 玲 | 舞鶴市立加佐中学校 3 年          |
| 伊勢木 美 音 | 精華町立精華西中学校 3 年   | 藤 本 心 優 | 宮津市立宮津中学校 3 年          |
| 坂 田 真 子 | 亀岡市立亀岡中学校 3 年    | 宮 野 琴 未 | 宮津市立栗田中学校 3 年          |
| 田 中 美桜里 | 亀岡市立南桑中学校 3 年    | 齊 藤 依 咲 | 与謝野町宮津市中学校組合立橋立中学校 3 年 |
| 宮 出 紅 羅 | 亀岡市立南桑中学校 3 年    | 森 垣 暉色琉 | 与謝野町立江陽中学校 3 年         |
| 岩 崎 りりあ | 亀岡市立南桑中学校 3 年    | 木 塚 史 乃 | 京都府立洛北高等学校附属中学校 2 年    |
| 徳 島 莉乃愛 | 亀岡市立南桑中学校 3 年    | 加 藤 遥   | 京都府立洛北高等学校附属中学校 2 年    |
| 菅 沼 妃 那 | 亀岡市立南桑中学校 3 年    | 三 浦 璃 子 | 京都府立南陽高等学校附属中学校 3 年    |
| 西 川 颯 真 | 亀岡市立東輝中学校 2 年    | 清 河 愛 美 | 京都府立福知山高等学校附属中学校 2 年   |
| 木 戸 彩 葉 | 亀岡市立東輝中学校 2 年    | 有 村 結 花 | 京都府立福知山高等学校附属中学校 3 年   |
| 森 立 優衣奈 | 亀岡市立東輝中学校 2 年    | 塚 原 葉 子 | 花園中学校 3 年              |
| 石 本 隼 己 | 亀岡市立東輝中学校 2 年    | 森 本 叶 愛 | 京都光華中学校 3 年            |
| 七 里 彩 華 | 亀岡市立東輝中学校 3 年    | 亀 村 雪 路 | 京都光華中学校 3 年            |

## 京都府知事賞

### 「私が決める」

亀岡市立南桑中学校 3年

牧野 心 春



みなさんは子宮頸がんワクチン、正式名称「HPVワクチン」を知っていますか。子宮頸がんの原因となるウイルスの感染を予防するためのものです。小学校六年生から高校一年生の間に打つことが推奨されています。私は今、まさに中学三年生。打つか悩んでいます。なぜなら、このワクチンで重い副反応を負った方がいることを最近知ったからです。

ある日、私は母に勧められワクチンの副反応で苦しんでいる方の話を読みました。主な症状は、突然の失神や記憶障害など、日常生活に支障のあるものばかりでした。私はこれを読んで、健康を願い、このワクチンを打つ

た方がなぜ苦しまなければならないのかと苦しくなりました。驚いた私は、後日ワクチンを打つ予定の友達に聞いてみました。すると、友達もこのような副反応が出た方がいることを知らなかったのです。

ワクチンを打った一部の方が重篤な副反応に悩まされている事実、この事実は、私の友人をはじめ、周囲の人々には浸透しきっていません。しかし調べたところ、このような重篤な副反応が出る確率は約三〜七%でした。ですが、もし自分が三〜七%のうちに入ったらと思うと不安でしかたがありません。実際、HPVワクチンの接種率は、欧米などの外国では約八十%なのに対し、日本では約十四%と非常に少ないのが現実です。長期間効果が持続するワクチンを打たない理由は、私と同様リスクを恐れる気持ちからなのではないでしょうか。

そこで私は、子宮頸がん検診の受診率を調べてみました。すると、外国は八十%以上であるのに対し、日本は約三十%とこちらも非常に少ないです。改めて考えると子宮頸がんの検診はイメージがわきづらく、聞き馴染みもありません。しかし、子宮頸がんは早期発見ができれば子宮を温存した上での治療、さらに妊娠も可能です。早期発見率が高まることで救われる女性が多くいるのです。

では、どうすれば検診に行きやすくなるのでしょうか。一つは、金銭的な支援です。検診率の高い外国は、公的医療保険などで金銭的な負担を軽減したり、かかりつけ医が受診を勧めたりしています。このように日本でも「定期検診に行きたい」と思えるような工夫が必要だと思っています。

しかし、最も大切なのは命のために、予防法をオープンにできる土壌をつくることだ

と思います。子宮頸がんは誰にでも起こりうる病気です。日本では、二十五から四十歳の女性のがんによる死亡理由の第二位は子宮頸がんによるもの、という調査結果もあります。そして、このHPVワクチンで男性も予防できる病があります。それなのに、理解が進んでいないのは「子宮」が女性特有の部位であること、また恥じらいがあるからだと感じます。女性は知られたくない、男性は関係ない、またはよく分からない、このような状態では、理解も進みません。私は、命の方が恥じらいよりも大切だと思います。「いざ」というときは遅いのです。私と友人のように、普段からワクチンについて話せる雰囲気作りが大切なのではないでしょうか。

みなさんにはHPVワクチンの副反応で苦しんでいる方々がいるという事実、検診に行く大切さを知っていただけたら嬉しいです。私は、自ら考え、知った上で、勇気を出してワクチンを打ってみようと思います。ただし、打ったからといって油断するのではなく、検診は定期的な受け、できるだけ早期発見に努めることを意識して生きようと思います。

私は打つ。しかし、打つ打たないは個人の自由です。ですが、ワクチンや検診という選択肢があることを忘れないでほしいのです。また、男性も関係のないことではないと知ってほしいです。

自分や、大切な人の身体に対して、命を最優先に考えられる人に私はなりたい。みなさんもHPVワクチンや検診について知っていただけたのであれば、ぜひ身近な方と話をするとところからはじめてみませんか。

## 京都府青少年育成協会会長賞

### 「私が思う「障害」」

舞鶴市立青葉中学校 3年

富 永 和 奏



障害は個性なのか。それとも周りの人に迷惑をかけるものなのか。クラスメイトは私のことをどう思っているのか。私がいることで、空気を壊してしまっているのではないのか。

私は生まれつき難聴という障害を抱え、右耳に人口内耳、左耳に補聴器をつけている。小六まではろう学校に通い、手話を使って会話をしてきた。中学生からは地域の中学校に通い、新しい出会いがあり、世界が広がった。集団生活は本当に楽しい。

しかし、新たな悩みや葛藤が生まれた。私は、障害者じゃなかったらこんなことにならなかったのに、とよく思う。日常の中で、慣

れてしまっているけれど、苦しいことがある。人と話している時、相手が何を言っているのかよく分からない。これは私が小さい頃から経験してきたことだ。そんな時、私は相手に聞き返してもう一度言ってもらおう。でも、その会話の中では、一度しかできない。それ以後に同じことがあったら、愛想笑いをしたり、適当に返事したりしてしまう。何度も聞き返すと、スムーズに会話が進まないし、相手がどう思っているか考えるのが怖いからだ。

さらに、コロナ禍でマスクをする人が増え、会話をもっと難しくなった。聴覚障害者は人と話す時、相手の口の形を見て、聞こえた音と照らし合わせて聞き取っている。だから、マスクによって口の形が見えなくなり、会話がより難しくなった。毎日のことなので次第に慣れていったが、それは小さなストレスとなっていた。

そんな中、嬉しいことがあった。私は左耳の補聴器より、右耳の人工内耳の方が聞き取りやすい。そう友達に伝えると、移動教室などの時、自然と私の右側に来てくれるようになった。些細なことだけど、私はとても嬉しかった。

相手の言っていることが分からない原因は、これだけではない。私は、はっきりと発音ができ、スムーズにしゃべることができている。そのため周りは、私が聞こえにくいことを忘れてしまうことがあるように思う。だから私以外の人と話す時と同じように、早口だったり、声が小さかったりして、聞き取り

にくいことがある。

私は健聴者と同じ場所で過ごしている。自分だけ障害を持っているから、周りの世界から隔離されたように感じる時がある。友達との間に、透明の壁があるように感じる時がある。障害がなかったら、もっと友達と仲良くなれたかもしれない、とも思う。

私は、なんで自分は障害を持っているんだ、とふと思う。答えなんてないのに。それが一番苦しい。

自分にとって苦しいことを、障害のせいだと決めつけてしまう。障害は変えられない運命だから、そう言い聞かせて自分を納得させようとしているんだと思う。最近では自分が障害者じゃない世界を想像してしまう。泣きたくなったり、学校に行きたくないと思ったりしたことはない。心の底から楽しいと感じる瞬間もある。でも、私が自分の障害について考えるようになった時からずっと、心の奥で、静かに生ぬるい雨が降り続けているような心地がしている。

私が抱える難聴は、一生治らない。死ぬまで自分の障害と向き合わなければいけない。それでも、私は思う。障害は苦しいものじゃない。自分の個性のひとつなんだと。だから、障害への配慮は必要だけど、特別扱いをしないでほしい。可哀想だと思わないでほしい。わざと気を遣わなくていい。私を障害者としてではなく、みんなと同じ中学生として、ひとりの人間として、普通に接してほしい。それが私の願いだ。私は障害のことをもっと広く発信して、自分らしく生きていきたい。

## 京都府教育委員会教育長賞

「だれもが生きやすい社会に  
～無意識の差別を超えて～」

亀岡市立亀岡中学校 3年

前田 花音



ダウンちゃん。みなさんはこの言葉を耳にしたことはありますか？これはダウン症候群という障害を持つ子どもたちを指す言葉です。ダウン症児を持つ親や、医療現場で愛称として使われています。私にもダウン症候群を持つ弟がいます。私はよく弟について聞かれる時、「弟くんってダウンちゃん？」と聞かれます。私はそのことに別になんとも思わず、言葉を返していました。

しかし、ある時、私のスマホにダウン症児を持つお母さんの投稿が流れてきました。それには「この子には私たちが愛情を込めてつけた名前がある。それなのになぜ『ダウンち

ゃん』と呼び、健常児と差別するのか。それは黒人、白人と差別していることと同じではないか。」と綴られていました。みなさんはこの言葉を聞いて、どう感じましたか？わたしはこのお母さんが、自分の子供を「ダウンちゃん」と呼べたことで、何か辛い経験をしたんだなと感じました。私もこのお母さんのように感じる時もあります。そういう時は大体、相手が弟のことを「ダウンちゃん」としか見ていない時です。例えば、あなたが花粉症だったとしましょう。そして初対面の相手に「あなた花粉症ちゃん？」と聞かれます。おかしいと感じませんか？そんなことを聞く前に「なんて名前？」「何が好き？」と聞くはず。つまりダウン症児を「ダウンちゃん」という言葉でひとくくりにしてしまう考え方が一人ひとりの個性や生命を軽視してしまう結果になっているのです。それは、その人の尊厳を踏みにじる結果となり、「人種差別」と同じ意味を持つと言ってもよいと思います。

私たちの社会では、今でも根強い差別意識が多くの人々を苦しめています。みなさんがよく知っている、黒人差別がその一例です。約二六〇年前から続くこの差別は、スペイン人がアフリカの人々を奴隷として扱ったことから始まりました。そして、今もなお解決されてはいません。みなさんは、無意識のうちに黒人に対する偏見を持っていますか。私はコンビニで出会った黒人の店員さんに対して、「怖そう、貧しいのかな」という偏見を持ったことがあります。しかし、実際は笑顔で私に挨拶をし、優しく応対してくれま

した。私は肌の色だけでその人を決めつけてしまったのです。これは私の理解不足、そして黒人は貧しいという固定観念により生まれた偏見です。そしてこの偏見が人種差別を生んでしまうのです。それに気づいた私は、自分が酷い人間だと思いました。それと同時に無意識に作り出される偏見はとても危険なものだと感じました。一人の人間が差別意識を持つと、その感情は瞬く間に周りに広がる 것입니다。時には、その偏見が大きくなり、時代をこえて残る「人種差別」を生んでしまうのです。人間が何かに対してもった感情が固定観念となって広がり、偏見をうみ、無意識のうちに誰かを差別してしまうことがあることを私たちは忘れてはなりません。

「黒人」「白人」「ダウンちゃん」。これらの言葉を使っているほとんどの人は、差別をしているという意識はないはずです。しかし、裏を返せば、無意識のうちに人間を分け隔てる、「差別」をしているということ。社会を作っているのは、一人ひとりの人間です。私が、あなたが、「自分の心に偏見はないか。」「無意識に差別していないか。」その可能性を常に自覚し、問いかけることで社会は変わるのです。

私の弟には、両親が願いを込めてつけた「一樹（いつき）」という名前があります。自分に正直で自由奔放な唯一無二の大切な弟です。弟が「ダウンちゃん」としてではなく一人の人間として幸せに生きていける社会、だれもが生きやすい社会に変えていかなければと私は考えています。

## 京都市教育長賞

「そんなところも大好き」

京都光華中学校 3年

井上 ゆりあ



「弟なんか大嫌いだ」そう思っていたのは私が小学四年生の頃です。

私には、二人の弟がいます。その弟たちは二人とも自閉症（自閉症スペクトラム症）を患っています。

私が小学四年生の頃、上の弟が入学してきました。弟が入ったクラスはさくらんぼ学級というクラスでした。さくらんぼ学級は特別支援学級で、普通とは違うという印象が強い人も多いでしょう。当時、何も知らなかった私は、さくらんぼ学級の楽しそうな授業を聞いて、お母さんに「どうして私はいけないの？」とさくらんぼ学級の特別さに憧れ、入

りたいと思い、泣きじゃくって頼んでいました。そして、その学級に入っている弟に嫉妬していました。

家庭でも嫉妬することはたくさんありました。弟がわがままばっかり言うからです。食べたくないものはすぐ残す。おもちゃの取り合いは日常茶飯事。それを言葉で解決出来たらいのですが、弟は思ったことを言葉にできませんでした。すぐに叫び声をあげ、叩きます。「弟なんか大嫌いだ」と私は思い、それでも、なんとか我慢していました。

そんなある時、お母さんに一冊の本を買ってもらいました。「自閉症の僕が飛び跳ねる理由」という東田直樹さんの本で、自閉症について書かれた自伝のような本でした。そこには今まで知らなかったことがたくさん書いてありました。例えば、「変な声は反射で出てしまう」「状況に合わせて変えることが大変」などです。確かに弟は、冬になると寒いからとお母さんに渡されたジャンパーを着るのを嫌がっていたな、あれは状況に合わせる couldn't do that のか・・・と思いがたることがいくつもありました。過去を振り返りながら読んでいると、涙がこぼれ落ちていました。

弟の辛さを知らなかった自分に後悔が押し寄せました。逆に、今まで何も知らずにわがままを言っていたのは自分だったのだ、と思ひ知りました。

本を読んだから、上の弟のことはよく分かって好きになれましたが、下の弟のことは全く分からず嫌いなままでした。上の弟は比較

的慎重なタイプで、下の弟は軽率でした。でも、具体的にどんなところが嫌いなのか考えてみると、その答えは意外なところがありました。下の弟は、私と似ていたのです。

例えば、上の弟は物を置く場所が決まっています。机がきれいですが、私と下の弟は机が汚い。下の弟は、ほぼ毎日泣きますが、私も小学生の頃はめっちゃ泣いていたのです。私が下の弟が嫌いだったのは、似たもの同士だったからなのです。自閉症といっても、私とあまり変わらないのだなと気付きました。

今、弟たちは小6、小3になりました。まだ思いを言葉にできないこともあります。少しは気持ちを伝えられるようになってきたと思います。一緒に過ごしていて、最初は「弟たちは普通じゃない、みんなと違う」と思っていました。そんなことはないのだと、気持ちを伝えることは私も苦手だし、似たようなものだと思うようになりました。

皆さんは電車やバスに乗っているときや、町を歩いているときに、大きな声を出したり同じ行動をくり返したりする人を見かけますか？そんな人を見て「うわっ」と引いていたりしませんか？最初ぱっと視界に入ると私も引いてしまうところがあります。ですが、内面を見てみると素敵な人が多いかもしれません。身近にそのような人がいたらためらわず、話してみるといいかもしれません。第一印象から偏見にとらわれず、しっかりと相手を理解することで、どんなひとでも暮らしやすい社会に一步近づけるのではないのでしょうか。

## 京都市市町村教育委員会連合会会長賞

### 「多様性社会」

#### 亀岡市立東輝中学校 3年

永澤 琴羽



みなさんは「LGBTQ」という言葉を知っていますか。きつと知っていると答える人がほとんどなのではないでしょうか。LGBTQとは、性に対して何かしらの違和感を持つ人々を指す言葉です。そのような言葉を多くに人が知っているこの時代、多様性を受け入れ、多様性社会に向かっていくということがかなり重要視されるようになりまし。では、「受け入れる」というのは一体どういうことなのでしょう。私は以前まで「性の違いも受け入れるべきだよな」「差別をするなんて酷い」ということを漠然と考えていました。しかし、その考えを母に伝えた時に投げかけられた一つの質問で、私は受け入れることの難し

さを知ることができました。

「スポーツ大会の時、心は女性なんですって言って男性の体格をした選手が女性の部門で出場しようとしたら琴羽はどうする。」私はこの質問に答えることができませんでした。この質問において、多様性を受け入れるということはその人を女性の部門で出場させることなのかもしれない。しかし、男女の身体能力の差を考えるとそれはできません。その人を受け入れることで本来メダルを獲得できたであろう人が悲しい思いをしてしまうかもしれないからです。しかし、その人の願いは叶えられないと断った時、それは差別にならないと言いつけるのでしょうか。そう考えると、私はそう望む人がいてもどう対応するのが正解か分からなくなりました。

少し視点を変えて、女性の体を持つているけれど、心は男性の人が男性部門での出場を願っているとして考えてみましょう。その場合、順位において損をするのはその人の方で他の男性選手にとつてマイナスになることはありません。つまり、その人が望むのであれば男性部門での出場が叶うかもしれないということです。しかし、体の性が男性か女性かの違いで同じ状況でも違う対応を取るとなると、それこそ男女差別になってしまいます。母にこの質問をされたのは私が中学二年生の時でしたが、三年生になった今も私はまだこの問いの答えを見つけれません。ただ、この質問から私は受け入れることの難しさの他に、もう一つ新たな気づきを得ること

ができました。「受け入れる」ということそのものについてです。改めて考えてみると、今までの話では私が必然かのように「受け入れる」側に回っていたことが分かります。自然と自分は多数側にいると考え、勝手に少数側の人々を受け入れるつもりになっていたのです。しかし、実際にはそうでないと感じました。

多様性社会を実現すべき意義は、差別のない世界をつくることはもちろん、互いに違いがあるからこそその価値観やアイデアを得て、世界をもっと広くし、生きやすい社会を実現することにあると私は考えています。さまざまな立場にある人々みんなが生きやすい世界にするためには、どちらかの意見に偏るのではなく、それぞれが理解しあい、少し妥協し、互いに納得できるポイントを探すことが大切なのではないでしょうか。多様性社会とは、私が誰かを受け入れると共に、私を誰かに受け入れてもらうことで初めて実現できるのだと気がついたので。

今後、きつと世界はさらに多様性を意識するようになっていくでしょう。そんな中で私たちが大切にすべきなのは、自分がどちらか一方の立場にいると考えず、さまざまな角度から物事を見つめ、みんなが生きやすいと感じる本当の多様性社会を実現することなのではないでしょうか。

## 京都府公立中学校長会会長賞

「二人の時間があるから」

団らんが好き」

向日市立西ノ岡中学校 3年

下川 桜



「ご飯できたよー」

この声でそれぞれの場所で楽しんでいた時間が終わりを告げる。ユーチューブを見ながらダンスの振り付けを覚えていた時間。テストに向けて集中して勉強していた時間。部活終わりで疲れ切つてうとうとしていた時間。仲間とラインで週末の予定を調整していた時間。洗濯物をたたむ時間。一人で過ごすこれらの時間に私は自由を感じる。誰かに強制されたわけではない。やりたい事を全力でやる

この過ごし方が私は好き。そして、同じ思いでそれぞれの時間を過ごす私の家族の在り方が好き。

我が家は、父と母と三人娘の五大家族。受験勉強に精を出す姉と、甘えん坊の妹に挟まれた私は、自由奔放な次女。私のモットーはやりたい事を好きにだけやりたい。だから、部活終わりで疲れていると勉強はそっちのけで、まず友達とのラインを確認して。

そんな我が家の暗黙のルールは自分の時間を大切にすること。それぞれがそれぞれの場所で自分の時間を過ごす。そんな過ごし方が最高。

でも、この時間がご飯と共に一変する。「ご飯できたよー」この高らかな宣誓がなされると、みんなが一斉にリビングに集合する。個から団らんへの切り替え。一気に家族の会話が盛り上がる。笑いあり笑いあり笑いあり。学校であつたうまくいかない出来事も、ここで笑いに昇華されていく。母の職場の愚痴も父の自慢話も、姉の恋愛相談も妹の趣味の世界もなんだか自分の事のように思えてくる。私には憂いさを笑いに変える才能があるみたい。隠し味は傾聴。実は私は家族一の聞き上手なのだ。

一人の自由な時間があるからこそ、団らんが盛り上がる。私はそう思う。家族が私に無関心だから、私には自由

な時間があるという訳ではない。家族が私を尊重してくれているから、私も自由な時間を思う存分満喫できる。無関心と尊重は違うのだ。相手の事が分かっているからこそ、相手との快適な距離感を保つ事ができるのだ。だから、お互いが困っている時は支え合ったり、一緒になった時に熱く語り合ったりできる。私の家族はそんな関係だ。

こんな一人の自由を大切にする家族に感謝する。「みんな違ってみんないい」金子みすずはこう言った。この言葉は、違いを認められる事を良いと言っているのではないかと私は考えている。違いを認めるからこそ、一緒にいる時が楽しくなる。だから、私はこの言葉が好きだ。

友達との距離感に困っている人に伝えたい。無関心は絶対ダメ。相手の事を知らうとする気持ちが必要。でも、一人の時間があるから成長する。一人の自由な時間があるから、会った時に、会話が弾む。心が躍る。また会いたいと思う。

私には、たくさんさんの友達がいる。共に笑い、共に語り合い、時に喧嘩もするけれど、仲直りする自信がある。そんな友達に出会えたのは個と団らんの切り替えの大切さを教えてくれた家族のおかげだと、今感じる。

## 京都府PTA協議会会長賞

### 「自分の中の自分」

亀岡市立南桑中学校 3年

入江 千咲葵



セクシャルマイノリティというものを知っていますか。最近では一般的になりつつあるこの言葉は同性愛者や自分の性別に違和感を持つ人々のことを指している。私の周りの人たちは、大多数が異性愛者だ。しかし、私には自分の性について打ち明けてくれた一人の友人がいる。

その友人とは仲が良く、頻繁に連絡を取り合っていた。年齢が一つ上で、学校も違っていたため、一緒に会って遊ぶ機会などは少なかったが、なんでも気兼ねなく話し合えるほどの仲だ。そんな友人からある日、突然話したいことがあると言って打ち明けられた。自分の好きになる人が同性であるかもしれない

い、と。その時、友人は怖々と、どこかためらうように話していた。聞くと、軽蔑されるのでは、と不安だったらしい。これを聞いて、自分のことを話すのにこんなにも悩まなければいけないのかと思った。なぜこんなにも友人は自身の狭い思いでいなければいけないのかと自分のことのように苦しく感じた。

今、人々の見解が深められているLGBTQ。個人の型にはまった性はなく、自由に好きに生きることが尊重し、皆が認めるべきだという取組が進められている。

その結果、世の中は確実に変わってきた。学校では、好きになる対象が同性だという人の話が出て、「いいよね」「好きになる人なんて人それぞれだし、その人が好きならそれが一番。」という言葉が当たり前のようになんて話されている。テレビでも、ネットでも、多様な性を持つ人たちの発言が、前向きなものとして取り上げられている。私だって同じだ。誰に対しての「好き」も素敵なものだと思えば、自分の性に苦しみ、心を押し殺してしまうなんて悲しいことだ、と感じる。ただ、友人から打ち明けられたとき、私はどこまで相手のことを考えられていただろうか。きっと、私には受け入れてほしい、受け入れてくれると願って話してくれたのだと思う。私は、大切な友人の言葉だからこそ、一生懸命聞いた。精一杯耳を傾けた。しかし、「その瞬間だけ」でいいのだろうか。

今回のように、大切な友人が、もしくは家族が、これから出会う高校の友人や職場の同僚が、大事な打ち明け話をしてくれることがあるかもしれない。そんなとき、私は相手が、共に安心して過ごせる未来を思い描けるような存在になりたい。その場のノリや勢いで

はなく、一緒に出かける未来や、恋愛について語り合う瞬間や、泣いたり笑ったりできる未来を想像してもらえたい。その人のこの未来を一緒に歩んでいきたい。その人のこれからを一緒に歩んでいきたい。その人のこれからを一緒に歩んでいきたい。

人の性別はグラデーション。そんな表現がされている時もあった。法律上、戸籍などでの性。自身の性別の認識。恋愛の対象についての性。様々な種類があり、どれも形が決まっていらない。誰かに決められるものでもない。自身がどう思うかであるもの。わからないのも、定まらないのも、それでいい。これが当たり前になれば、傷つくのを恐れる人はいなくなるのだろうか。LGBTQ、セクシャルマイノリティ、性的少数者。そんな言葉すら必要でなくなる世界になることが一番のジェンダー平等なのではないだろうか。そう私は思う。

私の知る限り、そんな悩みを持つ知り合いは打ち明けてくれた友人一人だけだ。でも、知らないだけで他にもいるかもしれないし、本人も気が付いていないかもしれない。言っていないけれども、気付いていないけれども、それでも悪いことは決してない。そんな人がいたところで、私のその人への見方は変わらないし、変えるつもりもさらさらない。批判的となることもあつてはならない。今悩む人も、これから悩む人もいない、そんな世の中にしたいと思う。

型にはまらない、誰一人として全く同じものはない、自分だけのものを誰もが尊重する世界になることを私は強く願っている。

## 京都市PTA連絡協議会会長賞

### 「比較癖」

京都府立福知山高等学校

附属中学校 3年

杉本 咲愛



「比較癖」そんな自分の癖に「もう懲り懲りだ。」そう何を感じたことでしょうか。私たちは、日々、「比較」の場面に出くわします。例えば、学習や部活。これらのものに結果はつきものです。完璧主義者の私はその度に、何度も胸が締めつけられ、涙を流してきました。「アイデンティティの未確立。」これが私の最大の悩みです。ここからは、この悩みを強く意識した二つの出来事について述べていきたいと思います。

一つ目は、学習に関することです。私は現在の中学校に入学する際、試験を受けました。その試験に合格するために塾に通い、勉

強と向き合う日々。そんな中、塾で受けた国語模擬試験で自分でも納得のいく成績を残しました。そして、その時から「私Ⅱ国語が得意」という印象が形成されていったのです。当時その印象を受け取ったことは非常に嬉しく、鼻が高かったのも事実です。けれども、中学に入学してからは国語の試験で自分の思うような結果を残すことができなかったりました。

「最近、国語の成績が良くないじゃない。どうしたの。」そう祖母から聞かれました。その言葉で私は武器であった国語を失ったことに気づいたのです。そして、そのことを意識すればするほど昔と今の自分を比較するようになりました。

二つ目は、部活動に関することです。私は卓球部に入っていて、同級生や後輩たちと切磋琢磨し合いながら楽しんでいました。けれども、大会に出場すれば、楽しいだけでは通用しません。実力差が目に見えて露呈するのです。「私と同じ時間練習しているはずなのに」「あの子は上手くて羨ましいな。」このような考えが頭の中を支配します。さらに、結果を残して帰ってきた友達に心の底から「おめでとう」が言えないのです。本当は素直に「上手だったね。おめでとう。」と伝えたいのに。自分の中に渦巻く負の感情がそうさせないのです。

このような経験を通して、「比較癖」を育てながら「こんな自分は最低だ。」そういう認識を持つようになりました。

小さなことだったら、すぐにでも相談できたのかもしれませんが。しかし、悩みのスケールが大きく、複雑なこの悩みをしばらく誰にも話すことができませんでした。

けれども、自分の中の膨らんだ感情に耐え切れなくなつた私は、ある日母に話すことを決心しました。すると母は「お疲れ様。学校休んでもいいんだよ。」と優しく背中を撫でてくれました。どんなに体調が悪くても途中から登校するなど、ほとんど丸一日休むことがなかった私ですが、その日は久しぶりに学校を休みました。

後から聞いてみると、母も同じ悩みを抱えていたことがあり、娘に同じ経験をさせているのが申し訳なかった。と語ってくれました。「同じ経験をさせているのが申し訳なかった。」この言葉で、私は一人ではなく、近くに支えてくれる人がいることにやっと気づくことができました。

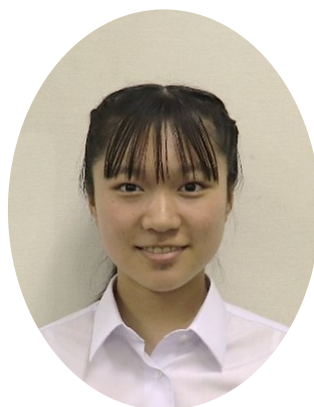
私は依然「比較癖」を抱え込んだままです。しかし、母のおかげで誰かに寄り添ってもらえる自分に気づくことができました。だから今は、そんな現在の自分を大切にしていきたいと考えています。自信がなくなる日だってあるのだ、と理解すること。このような私だからできることがあるのだ、と自分を認めること。「比較癖」まで愛すること。まだ私には遠い道のりですが、できると信じています。

## 京都新聞賞

「知れば変わる私たちの未来」

福知山市立日新中学校 3年

小山 にじ香



「みなさんは、トイレットペーパーをポーチに入れて持ち歩いていますか。トイレットペーパーは期間限定で無料ですか。」  
先月、産婦人科医の杉山伸子さんが、『子どもの生理の貧困』をテーマに福知山市で講演をしたという新聞記事を読んだ。杉山さんの「生理用品はトイレットペーパーと同じ。なくては困るもの。」という言葉に、私はとても共感した。確かに、生理用品は女性にとって必需品だが、各自で常備しなければならぬもので、無償提供されたとしても「なくなり次第終了」というケースが多い。  
実は私は、それより前の新聞で、福知山口

ータリークラブの会員たちが、市内の小・中学校に生理用品を寄付をしたという記事を読み、大変うれしく思った。しかし読んでいくと、各学校の保健室に保管されるとあり、がっかりしたのだ。生理用品については自治体で対応が異なり、舞鶴市や京丹後市では全中学校の女子トイレに置かれているそう。私も杉山さんが言っていたように「必要な場所に生理用品があるという安心感が大切。」だと考える。なぜなら、自分の手元には生理用品がないとき、保健室にもらいに行くのは恥ずかしくためらってしまうからだ。私には、生理痛のために保健室へ行ったけれど、腹痛としか言うことができなかった経験がある。まして「ナプキンをください。」と直接言うことは、絶対無理だ。  
福知山市は今、選挙期間中だ。郵便受けに入っていたビラを見ると、公約の一つに「小中学校のトイレに生理用品の設置」を挙げている女性議員がいた。「私に選挙権があったら、この人に投票する！」と言うと、普段はあまり選挙に関心がない両親が投票に行ってくれた。  
新聞記事を読んで思い出したのが、ショッピングモールで見た『OIT』(オイテル)だ。アプリをダウンロードすると、個室トイレに設置されているボックスから、ナプキンが無料で提供されるサービスである。私も初めて利用してみた。スマートフォンがあれば誰でも利用できるのだ、とても良いサービスだと感じた。外出先での急な生理は、本当に厄介だ。私は一度、洋服まですべて買って着替えることもある。しかし、『OIT』は、京都市

などの大都市にしか設置されていないのが残念だ。

考えてみると、杉山さんにしても、女性議員にしても、声を上げるのはいつも女性ばかりだ。男性も、今の女性がおかれている現状を知るべきだと思う。ナプキンのコマーシャルでは、経血の代わりに青い液体が使われている。それをそのまま信じている男性もいるそう。私の父は、トイレに行ったときだけ出血すると思っていたという。そんな風に自分でコントロールできたなら、どれほど楽だろう。

私たちは五月、沖縄へ修学旅行に行った。おそらく、ほとんどの女子たちは一ヶ月前から旅行と生理が重ならないか気にしていたと思う。マリン体験ができるかや、ホテルの寝具を汚してしまわないかなど悩みは尽きない。出発直前に、女子だけが集められて、生理中でもマリン体験ができると説明を受けた。

小学校からのことだが、この手の話になると男子は出ていくのが暗黙のルールだ。だから、男性は女性のことについて知る機会がない。知らなければ、女性のことを理解するのも難しいだろう。知ることが思いやりの第一歩で、その一歩は学校での教育にかかっていると思う。

最近の新聞に、大学入試の際に生理痛が配慮されると、初めて実施要項に明記したとあった。社会は少しずつ変わってきていると感じ、うれしくなった。もしかすると、女性の知らない男性の悩みもあるのかもしれない。お互いのことを知るには、難しいが大切だ。

## KBS京都賞

### 「普通」という言葉

亀岡市立南桑中学校 3年

今 西 優芽愛



私には、もうすぐ三歳になる弟がいます。声をかけるとニコリと笑ってくれます。機嫌が良い時は声を出して、笑顔で遊んでいます。

でも、弟には障がいがあります。

弟は、まだ首がすわっていません。歩くことも、言葉話すこともできません。私は、弟がとても可愛くて、大好きです。ただ一つだけ、私には弟ができてから嫌いになった言葉があります。

「普通。」

弟が生まれてから何度も、この言葉を聞きたくない日がありました。ある日、私は社会の授業で、「ベトちゃん」とドクちゃん」という紙芝居を聞きました。

その紙芝居は、ベトナム戦争で撒かれた枯れ葉剤による後遺症で、結合双生児として産まれたベトちゃんとドクちゃんについて一人の女の子が作文にし、クラスメイトに発表する、という内容です。

紙芝居の中で、女の子のクラスメイトはベトちゃんとドクちゃんを見て、「可哀想」と言いました。私は、「可哀想」という言葉を疑問に思いました。身体が不自由だと可哀想なのか。頭の中が答えのない問いであふれ、私は顔を上げられなくなりました。

「普通の人」「普通の生活」という言葉は私の周りで世の中を良くしたい、という思いを持って使われます。ですが、私にはこの言葉を聞くと、何か引つかかるものがあります。

たくさんの方が使う「普通」の中に、障がい者は含まれていないと感じるからです。私は、世間が言う「普通」をこう解釈しました。「人々の平均」です。それは、だいたいの人ができることを指します。例えば、会話や、身体を自由に動かすことができる、などです。よく、周りの人に弟について聞かれました。私が説明すると、「大変だね。」と言う人がいました。私は、そう言われるのが嫌でした。「普通じゃなくて、障がいがあるから大変だね。」と言われているような気持ちになったからです。それから、「普通」という言葉が、無意識に人を差別していると感じ、とても嫌いな言葉になりました。そんなとき、私の考えを変える出会いがありました。「害」という字についての記事です。実は、この作文の始まりから、私は障害の「害」の字を、平仮名で書いています。それは、「害」という漢字を使うことをおかしいことだと思ったからです。私の「害」の字

に対するイメージは、災害や被害など、人に不幸を与える場合に使われているというものでした。このようなイメージを持つていた私にとって、この字を用いることはとても受け入れられないものでした。ですが、記事を書いた障がいを持つ子供の保護者の方は、つい先日まで「障がい者」という表記にこだわっていたそうです。しかし、奥様の「字だけ変えても意味がない。」というひとことで、文字だけにこだわっていた自分をあっさりと改めたそうです。

私も同じでした。「害」という字だけにこだわったり、障害について何も考えられていなかった。ですが、この記事を読み、言葉を変え、考え方を改めていく方が大切だと思いました。

私にとって、弟と過ごす時間が一番の癒しです。弟の可愛さで、疲れが取れます。しかし、弟を見ると、「歩いて欲しいな。」「会話ができたらな。」と思うこともあります。でも弟は、自分のペースで成長しています。最近、「この子は会話を聞いているんだな。」と感じることが多くなりました。そして、年齢で成長を決めるのではなく、弟の成長を見守ることが、私にできることだと思つています。

私は、弟の姉になれてとても幸せです。障害があるからといって、幸せが奪われるわけではありません。そして、障害は決して悪いものではないということです。この世の中の人々に伝えたいです。「普通」という言葉が、「人々の平均」ではなく、一人一人の「普通」として使われていくような社会になることを願っています。

## 京都府青少年育成協会会長奨励賞

### 「中学生の交通費」

京都府立洛北高等学校

附属中学校 2年

谷口 愛佳



私の主張は、「中学生は大人料金より安くするべきだ」というものです。私は中学生になってから通学や友達と遊びに行ったりすることで電車を使う機会が一気に増え、よく交通費が高くて不便だと感じていました。中学生のうちはお小遣いもそこまで多くなく、また自分で仕事をして稼げるわけではないので、とても大変です。また、私が普段利用している地下鉄では普段乗っている距離を往復すると八六〇円もかかり、交通費がこれだけあれば勉強に必要なノートがたくさん買えることに気付きました。このような不便さを私自身が感じたことから、中学生は大人料金より安くするべきだと思い、その解決策

を考えました。

まず私は、どうして中学生が大人料金になるのか、二つの理由を考えてみました。一つ目は、中学生はもう小さな子供ではないということを示していると考えました。中学生になると世間の常識が分かってきたり自己管理をしつかりできるようになったりします。これらは自立のスタート地点に立っているようなものではないかと考えました。小さな子供とは違い、公私の分別をつけられるようになったということを示すため、社会のルールでも大人のルールが反映されるようになったと考えました。

二つ目は、財源不足です。もともと小学生以下の子供が公共交通機関を利用することは大人と比べて少なく、さらに少子化が進んでいるため、子供の利用者数はどんどん減っていくと考えられます。このままでは電車やバスの運行のための財源が不足してしまうので、中学生からは大人料金にして不足している分の財源を補っていると考えました。

次に私は、どうして中学生が大人料金になるのかを実際に調べてみました。すると、昭和十七年に決められた「鉄道運輸規程」の中で「十二歳未満の子供料金は大人の半額とすること」と定められていることが分かりました。つまり一般的な中学生の年齢からは大人と同じ料金を払わなければならないと決められているのです。

しかしこの規程は、今から八十二年前に定められたものであり、とても古い規程です。当時は戦争中で小学校は国民学校となっており、進学できる状況でなかったことから中学生は大人扱いされていたと読み取れます。しかし、今の進学率は当時と比べてとても上がっていて、経済的に自立する年齢も上がっ

ています。そもそも法律で定められている「成人」は十八歳からであり、これでは中学生はまだ子供なのに大人料金を払っているという矛盾が生じてしまっています。

だから私は、規程を変えて中学生の交通費を下げるべきだと考えます。「規程を変える」というと、とても困難に思います。しかし、実際の法律に定められている成人が十八歳からであるということから、改正すべきは古い規程の方だと考えます。

中学生の交通費を大人料金より安くして中学生料金を新たに作成すると、「交通費が高いから」という理由で公共交通機関の使用を控えていた中学生の分、利用者数が増えていくと考えられます。「利用者が少ないから料金を高くする」のではなく、「料金を安くして公共交通機関を利用しやすくすることです。その利用者を増やす」ということです。利用者が増えると料金を下げた分は自動的にカバーできるので、財源不足の解決にもつながっていることに気がつきました。さらに公共交通機関を利用しやすくすることは、子育て支援にもつながっていることに気がつきました。今、子育てにお金がかかることが少子化の原因とも言われ、授業料免除などの対策が行われていますが、みんなが使う公共交通機関の交通費を安くすることは、更なる解決につながるのではないのでしょうか。以上のことから、私は、中学生は大人料金より安くするべきだと考えます。今後周りの人と意見を交流しながら新しい気づきを得たいので、この問題について深く考えてい

## 京都府青少年育成協会会長奨励賞

### 「喜怒哀楽の「怒」」

与謝野町宮津市中学校組合立

橋立中学校 3年

上山 陽花



皆さんが好きなスポーツは何だろうか。私はソフトテニスが好きだ。スポーツでは様々な感情が生まれる。勝つことの喜び、仲間と協力することの楽しみ、上手くできなかった時の怒り、負けた時の悲しみ。人間が持つたくさんの感情を、スポーツは経験させてくれる。

感情的になることは悪いことではない。問題はその感情の表現の仕方だ。喜ぶ時はガッツポーズをする。悲しい時は涙を流す。楽しい時には笑顔になる。では、「怒り」はどうだろうか。「怒り」という感情はコントロール

することが難しい。例えば、試合で上手くいかない時にラケットを叩き折る、投げる、対戦相手や審判に暴言を吐く。このような行為に対して、皆さんはどう感じるだろうか。「問題行動」と言われる人を傷つける行為は、どのような理由があっても絶対に許されるものではない。そうならないためにも、「怒り」という感情と上手く付き合っていかなければならない。

「怒り」という感情は、なぜ存在するのか。それはきつと、自分の大切なものを守るためだ。命や価値観、家族や友だち、立場やプライド、自分の大切にしているものが傷つけられた時に「怒り」は生まれる。自分の大切なものを守ろうとするのは、人間の本能的な部分であり、生存にも必要な感情だと考える。

「怒り」には負の側面も多くある。それが生まれる条件に、「依存」があると私は考える。身近なものではスマホやゲームだ。それに依存すると抜け出すことは難しい。「ずっと触っていたい」、「ずっとプレイしたい」など、大切なものがスマホやゲームになつてしまうと、それを没収された時の反動が大きい。大切なものを物に向け過ぎてしまうと、本当に大切なものが見えなくなってしまう。自分の行動に原因があるにも関わらず人のせいにする。私も同じように、言い訳をして人を巻き込んでしまうことがある。

「怒り」は問題が起きてすぐに芽生える感情ではない。スマホやゲームを没収されて

も、先に来るのは「悲しみ」なのではないだろうか。大切なものを失った「悲しみ」が、少しづつ不満やイライラに繋がりが、「怒り」に変わる。「怒り」はきつと、段階的なものだ。「怒り」への段階を少しずつ上がっていく中で、自分の感情を何とかコントロールし、誰かのせいにしたたり、物に八つ当たりしたりしないように自分を抑えなくてはならない。

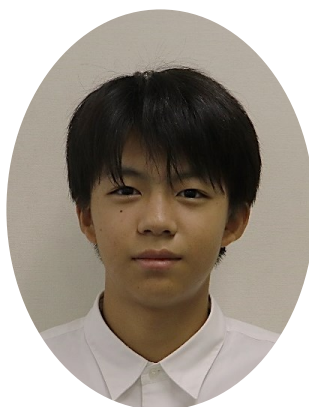
では、どうすれば「怒り」を抑えることができるのだろうか。「怒り」という感情そのものを直接抑えることは難しいと思う。「怒り」とは何かを守ろうとする、そして何かを成し遂げる時の原動力にもなるからだ。必要なのは、自分を振り返る力だ。なぜ負けたのか、なぜ失敗したのか、どうすれば上手くできたのか、自分への「怒り」を力に変えて、次に何をすればいいか前向きに考える。抑えるのではなく、力の向かう先を変えることが大切だ。自分の「怒り」をコントロールできるように、一人ひとりが意識をすれば、誰かが傷つくようなことはなくなると思う。自分の心を理解して、「怒り」をプラスに変える力を、私は身につけていきたい。

## 京都府青少年育成協会会長奨励賞

「あきらめないで」

舞鶴市立和田中学校 3年

田村 柊十



皆さんはこんなことを言われたこと、言ったことはないだろうか。

「諦める」「無理だ」などの否定的な、マイナスな言葉を。僕も、言われたり、言ったりした経験がいくつもある。そして、周りの言葉に左右されて諦めた人は少なくないのではないのか。僕はそういう人達を元氣付けて、夢を、目標を、挑戦を諦めてほしくないと思う。そして、言われても諦めない人、言わない人が増えて欲しい。

僕自信、諦めたことがたくさんある。例えば、体力テストのシャトルランで「もう無理かも」とあきらめた。後から、「あのとき、

頑張ったらよかった」と後悔した。その他にも、テストで、「どうせ自分は、百点は取れない」と思っ、勉強を少ししかせずに挑んでしまった。逆に、自分はできると思っている、周りから「無理だろう」と言われてやめたこともある。

もちろん、この言葉に負けない、「鋼のメンタル」の持ち主もこの世には存在するが、大抵の人がそうではない。だから、自分からマイナスに捉えず、やってみることも必要である。

では、諦める原因は、一体何なのか。これまでも述べたように、周りからの否定や自分自身による否定、自分の限界に行き着いたこと、自信のなさからくるものだと考える。周りからの否定や、自分自身の否定から、自信を失い、挑戦できなくなるのであれば、逆のことをすればいいのではないか。つまり、周りから褒めたり、認めてあげたり、応援してあげたりすると、自信がついて挑戦しようとするはずである。

だが、諦めたほうがよいときもあるのではないかと考える人もいるだろう。例えば、「プロ野球選手になりたい」「アイドルになりたい」「宇宙飛行士になりたい」いったような夢である。ちなみに僕は、野球部に所属している。修学旅行では、マツダスタジアムでプロ野球の試合を観戦した。プロ野球選手に「かつこいい」というあこがれを抱いた。僕もこんな熱気のある会場で試合をしてみたいと思った。「プロ野球選手になれたらいいな」という感情が頭の片隅に、よぎった。しかし、こんなことを言うと、それこそ「そ

んなの無理だ」「やめておけ」「現実を見る」と言われる。「そんな夢を見るぐらいなら、ちゃんと勉強して公務員を目指せ」と説教をする人もいるかもしれない。一握りしか実現しない、叶えることが困難な夢に対して、否定すべきなのだろうか。

僕は、自分の実力に見合った夢や目標を持つことも現実的だと考える。プロ野球選手になるには、普通の努力では成し遂げられないだろう。並外れた野球の技術、センスが必要だ。しかし、頭から否定せず、その夢に向かって努力することが大切なのではないだろうか。プロ野球選手になるために、自分自身が成長すればいいのだ。そして、周りもアドバイスをすればいい。本気で叶えたいと思える夢が持てたことが尊いのだ。

プロ野球選手になれなかつたらどうするのか。他の道もある、野球のコーチ、スポーツトレーナー、グローブを作る職人。野球が好きなら野球に関わる仕事がある。夢を壊さずに、好きなものややりたいものに向かって諦めずに続けること、周りがそれを応援することが大事なのだ。

僕は、次の三つのことを意識したい。それは、「自分から諦めないこと」「仲間の夢に対して応援すること」「無理と分かっていることについては、夢を壊さずアドバイスすること」である。夢が生まれた時、自信を持って向かっていこう。そして、僕たちの人生を華やかにしよう。諦めないで。

## 京都府青少年育成協会会長奨励賞

### 「量」と「質」のバランス論

#### 京都府立福知山高等学校

附属中学校 3年

谷村 知洋



「こなす量よりも質を上げんと伸びひんよ」これは僕が所属している陸上部の合同練習会で他校の顧問の先生がおっしゃった言葉だ。僕はこの言葉にずっと疑問を抱えていた。「いや、シチュエーションによつてはそうとも言えんのじゃない？」その先生の言葉が僕の心に引っかかってしまっていた。しかし、ある時にこの引っかかりを取り、自分の中に新たな価値観を植え付ける出来事が起こったのだ。

ある日の福知山市の陸上大会、僕は、三〇〇メートルのレースに出場した。それまで限られた日数の中で朝練をほぼ毎日入れて

いた。さらに、毎日の部活動での様々な練習に取り組み、追い込みをかけた。大会本番までに大幅にタイムを縮め、入賞を狙っていたからである。結果は三位。自己ベストを三十秒も更新した。この瞬間、僕はやはり、「質より量をこなすことが必要なんだ」と感じていた。

それから二週間後に控えていた中丹大会。僕は万全の状態で臨むはずだった。ところが、大会当日の五日前まで風邪を引いてしまっていた。ようやく風邪が治癒し、練習を再開したがどうも脚が上がらない。そこで、僕は本校の顧問の先生にアドバイスを求めることにした。先生からは、「病み上がりや、あと五日で大会やから今は長めでゆっくりのペースで走った方がいい。質を重視で。」ということだった。残り期間が短かったこともあり、アドバイスを忠実に練習をしてみた。すると、中丹大会では自己ベストを十秒以上も更新することができた。

これらの経験を通じて、僕が抱いていた引っかかりを解消することができた。それはなぜか。時間軸の中で今は「質」あるいは、「量」のどちらを意識すべきなのか、どちらが適しているのかを見分けることが重要だという一定の答えが見い出せたからである。つまり、「質」と「量」の相互の関係性について、納得解が得られたのだ。「量よりも質」、「質よりも量」という偏狭的な考えを持つ人も多い。しかし、自身で学んだこととしては、「量」を最初にこなしていくことで、「質」としてこなせる力が自然とついてくるのではない

かということだ。例えば、自転車。自転車を一定のスピードへ持つていくまでには、最初からこぎ続けるしかない。こぎ続け、一定のスピードで走行出来はじめた時に、スピードの調整が容易になるのである。

また、他人の言うことを何でも鵜呑みにすれば良いというものでもないことも同時に学ぶことができた。一度立ち止まって、本当にそうなのかということを吟味し、自分の納得解が得られるまで自問自答を繰り返していくことが大切なのである。

今回、冒頭で話した他校の先生が述べられた言葉を鵜呑みにしていれば、誰かの考えに僕が寄りかかったまま終わってしまったていた。

しかし、「果たして本当にそうなのか？」と一度疑問を持つて立ち止まってみたことで、新たな納得解を自分の中に生み出すことができたのだ。

これからは義務教育を終え、自分自身の判断がさらに委ねられる場面が増えていくだろう。その時に今回の経験は大きく活かしていくはずだ。目の前にある解を少し立ち止まって、もう一度問い直してみる。そこには、新たな別の世界が広がっていることだろう。そして、その経験こそが自分自身の賜物であり、大きな一歩なのだ。

## 京都府青少年育成協会会長奨励賞

### 「最初の「日本人」に立ち返る」

向日市立勝山中学校 3年

廣澤 奈々美



給食時間の終わり。たくさんのご飯粒がついたままのお茶碗が、片づけ用の入れ物に無作法に入れられているとき、いったいどれだけの人が「もったいない」と言ってくれるだろう。

「この異常な人口爆発の中で、世界は深刻な食料難に陥るとされているんですね。」三年生に上がつてからの授業で、先生がおっしゃっていたことだ。これを聞いたとき、私は思わず、どきりとした。給食の残されたままの器が、脳裏に浮かぶ。私たちの国の食料自給率は四割を切っていて、大部分を輸入に頼っている。そして、その輸入したものは、

何も無いところからできるものでも、降ってくるものでもない。私たちの食糧をつくるために、国内外問わず、たくさんの方の労力と、土地と、水が使われている。だがそれらの場所では、十分に栄養を摂取できていない人たちも少なくはない。しかし、そんな中で、しかも食糧難という問題が迫っているというのに、私たちの国では、当たり前のように食べ物やムダにしている人がいる。私はこう思う。その人たちは、もしかしたら、食べものをムダにすることの「もったいなさ」を理解できていないのかもしれない。食べものの本当の価値をわかっていないのかもしれない。それはすごく、いけないことなのではないだろうか。

驚くことに、世の中には、いわゆる「映え」を求めたり、注目を浴びたいと思うばかりに、店でメニューを頼んでは、写真を撮るだけで、食べずそのまま帰る人もいるようだ。これがよくないことであるのは、明らかである。だが私は、「これくらいならいいだろう」という軽い気持ちで、まだ食べられるものをためらいなく捨てたり、給食を器に残したまま片付ける人も、残す量に関係なく、そんな人たちと同じだと思う。きっとそれは、食べものの付き合い方が間違っている。

ならば本来の、食べものの付き合い方とは何か。私は、それは日本人の心の深いところにあると思っている。

「お米の一粒一粒に七人の神さまがいる。」私は、この考え方が好きだ。七人の神さま、というと、やはり日本で昔から信仰されてき

た、七福神のことである。この言葉が訴えているのは、一つ一つに七人もの神さまが宿るお米を、どうしてムダにできようか、ということ。私に初めてこの言葉を教えてくれた祖母は、太平洋戦争を経験していて、そのころの決して満足ではない食事を知っている。だからこそ、その言葉には重みがあった。けれども、同時に、昔から続く日本人の、ものを大切にする精神が伝わってきたような気がした。

それが、今はどうだろう。戦後、日本はあつという間に経済大国として成長した。今日の私たちの食事は、多様化するとともに、食べものがない、と困ることがほとんどなくなった。そのために、この日常の貴重さを、忘れてしまっているのだと思う。

だから今、日本人古来の精神に立ち返ってはどうか。食事の前には必ず「いただきます」終わりに「ごちそうさま」と言うように、私たちの文化の根底には、食べものを大切にする精神がある。私たちは、それを振り返ってみるべきではないだろうか。政府や世界が大きな問題に向き合う以前に、まずは一人一人が考え方を直すことが大事だと思う。そして、「ご飯粒が残った茶碗を見て、誰もが「もったいない」と言えるような、そんな私たちになろう。

## 第46回「少年の主張京都府大会」

### 講 評

京都府教育委員会の菊井でございます。本大会の講評を述べさせていただきます。

まずは、本日発表をされた中学生の皆さん、お疲れさまでした。皆さんは、府内各地から寄せられた多くの主張作文の中から、審査を経て今日の京都府大会の発表者に選ばれました。このことは、高く評価されますし、この府大会の舞台に立ったことに自信と誇りをもってください。

今日、多くの人の前で自己の主張を述べたことは、大変貴重な経験になったことと思います。また、他の人の発表を聴くことで多くのことを学ぶことができたと思います。皆さんの主張は、同じ年代の中学生のみならず、会場にいる全ての人にも感銘をうけるものでありました。

さて、今回応募してくれた皆さんの主張作文は、社会や世界に向けての意見、未来への希望や提案、友達との関わり、家庭や学校生活のこと、社会の出来事に関することなど様々なテーマで中学生らしい視点や切り口で主張されている作品ばかりでした。今年度の作品のテーマの特徴として、自分自身や家族、友人との関係性の中で感じた思いを、思いにとどまることなく掘り下げて分析し、構造化、理論化することを通して一般化させていった作品が多かったように感じます。その他、今日の社会の状況を反映した、社会課題をテーマにした作品もありましたが、状況を説明し「何とかしなければいけない!」という部分だけの展開に陥ることなく、自分自身がどのようにその課題に関わっていくのかについてまで書かれたものを多く目にしました。

中学生の時期というのは、自分の生き方や社会への関心が高まり、自分の考えとしてまとめ、提言や提案をしようとする意欲が高まり、そのあるべき姿を模索してくる時期でもあります。その一方で、モヤモヤとした思いが先行し、あるべき姿の具体像まで思い描くことが難しい時期でもあります。

今日、発表していただいたどの作品も、ただ現状を伝えるだけではなく、現状をしっかりと考え、自分たちにできることや社会に向けての提言など、何を主張したいのかよくまとめられ、力強く未来を切り拓いていこうとする主張でした。

今日ここで発表いただいた作品は、主張作文として読んだ印象から、さらに驚くほど思いの伝わるものになっていました。この場で発表することが決まってから皆さんは時間をかけて練習をなさったことでしょう。プレゼンテーション力として、例えば、話す速さ、身振りや表情、声のトーンなどのテクニックも大切ですが、その根底にあるのは、皆さんが聞き手に伝えたいという思いと、どうすれば伝わるのか、という創意工夫の賜物だと思います。皆さん自身の経験や感じたことをスタートとして、課題や必要だと思うことを浮き彫りにして、そこにどのように関わっていくのが良いのか、という考えをまとめていく中で、「伝えたい」という思いにつながっていった流れも含めて伝わってきました。良い発表、良い主張には、その根本に伝えたいという気持ちがあるものです。

そのような中、京都府知事賞を受賞された、

亀岡市立南桑中学校の 牧野 心春 さん、本当におめでとうございませう。ご発表のテーマ「私が決める」の中に込められた「相手の意見決断を尊重しながら決めるのは自分。でも、さまざまな意見もしっかりと聞いて考えていこう」という思いが、とてもよく伝わるものであり、内容、発表ともに、素晴らしいものでした。

また、各賞を受賞された皆さん、同じくおめでとうございませう。

皆さんは、とても緊張しながら今日を迎えたことと思います。この貴重な経験を今後の学校生活や進路選択、社会での活動に活かしてもらえればと思います。

会場にお集まりの保護者の皆さま、教育関係者やPTAの皆さま、最後まで御参加くださってありがとうございました。本日の発表の様子や一人一人の発表の良さ、中学生の考えていることを、あらゆる場面で共有していただければと思います。

最後になりましたが、本日しっかりと進行を進めてくれた二人の中学生と事務局の皆様、「少年の主張京都府大会」に関わってくださった皆様に感謝申し上げ、私の講評とさせていただきます。

京都府教育庁指導部学校教育課  
総括指導主事 菊井 雅志

## 「少年の主張全国大会」

「わたしの主張2025」

## 内閣総理大臣賞受賞作文

### 「一隅を照らす」

宮城県 栗原市立栗原南中学校三年

### ケイバージーバ

「一隅を照らす」という言葉を知っていますか？この言葉は、パキスタンとアフガニスタンの三十五年の間、病気の人達や貧しい人達のために医療や開拓などの支援活動を行ってきた医師、中村哲さんが好んで使っていた言葉です。

私が中村哲さんのことを知ったのは、小学四年生の頃。「日本人でそんな人がいるなんて……。」とても勇気のある人だ。」と強い感銘を受けました。

「私も中村さんのようになりたい……。」「困っている人達を救いたい。」

自分には今、何ができるのか、自分はどう生きていくのかを考えることが多くなりました。

私は、アフガニスタン人です。パキスタンの小学校に入学しましたが、父の仕事の関係で、四年生からは、日本で生活しています。

六年前に日本に来たときは、家族みんな日本語が全く話せず、言葉の違いや文化の違いに戸惑いました。

パキスタンの学校では、よく分かっていて勉強が、日本の小学校では、全然ついていくことができず……「日本語が分からないから仕方がないか。」と思う自分と「悔しい。何とか分かるようにになりたい。」と思っている自分がいました。

日本語が少し分かるようになり、日本の文化にも慣れてきた頃、始まった中学校生活。

待っていたのは、辛い日々……。テストのためにどれだけ勉強しても分からないことだらけで、負けず嫌いな私は、仲のいい友達にも負けたくなかったので、ストレスが重なり、「もう嫌だ。死んでしまいたい……。」

そう思うことが何度もありました。どうしようもなく泣いたこともあります。

そんな絶望的だった私を助けてくれたのは、友達や先生方でした。周りの人たちが話を聞いてくれたり、おもしろいことを言って笑わせてくれたりして救ってくれました。両親も、いつも応援してくれました。

「私も周りの人を助けてあげられる存在になりたい。」そう思うようになりました。

アフガニスタンには、病院も水もない場所があります。そこで中村さんは、「一隅を照らす」

「自分が今いる場所で、自分にできることを一生懸命やる」といった精神で、医師として、人として多くの苦しむ人達を助けてきたのです。

私の将来の夢は、医師です。現在のアフガニスタンでは、女性が学校に通えるのは小学校までで、女性が教育を受け、就職する機会が奪われています。私の親戚も女性は働いていません。私の母は「自分は勉強できなかったから、ジーバにはさせたい。」と、いつも励ましてくれます。アフガニスタンに住む友達には、「平和な国で学校に行けて、勉強できていいね。」と言って毎日泣いています。

日本に来て、辛かったこともありましたが、今は、日本で勉強ができていることが本当に幸せです。日本の国籍を取得し、大学に入って自分の夢を実現させたいと思っています。

家族と話すパシュート語、ウルドゥ語、ヒンディー語、アラビア語、英語、日本語。私が話せる言語です。それを自分の特技として生かしていきたいです。医師になって、母国のアフガニスタンで病気の人達や貧しい人達

を助けてあげたいです。私が働くことが、アフガニスタンの女性達の希望につながる。そう信じています。

人間は一人では生きていきません。人から支えてもらい、人を支えて生きています。私を支えてくれた友達や先生、そして両親に恩返しをするために、「一隅を照らす」パシュート語で (دشمن دوستی ہے) 。まずは、今の自分にできることを、やり続け、やり遂げられる人になりたいです。いつか、日本とアフガニスタンを結ぶ架け橋になるために。

大会の模様を **You Tube** でご覧いただけます。



公益社団法人京都府青少年育成協会は、「京都府子育て環境日本一推進会議」に参画しています。

## 公益社団法人 京都府青少年育成協会

京都市上京区出水通油小路東入丁子風呂町 104 番地の 2 京都府庁西別館 3 階

TEL 075-417-0602 FAX 075-417-0603 e-mail kpyda@cello.ocn.ne.jp

URL <http://kyoto-seishonen.or.jp/>

